

Title	ストック型競争優位の構築において経営ビジョンが果たす役割に関する考察
Sub Title	
Author	下之園, 憲明(Shimonosono, Noriaki) 柳原, 一夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2054号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2054

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	榊原研究会	学籍番号	80430519	氏名	下之國 憲明
<p>(論文題名)</p> <p>ストック型競争優位の構築において経営ビジョンが果たす役割に関する考察</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文では、企業が持続的競争優位を構築するにあたって、経営ビジョンが果たす役割に関して考察することを目的としている。この場合、企業とは主に日本の製造企業で、なおかつ市場が成熟期に達していると考えられる企業をイメージしている。筆者の従事している日本の住宅産業も成熟期に達していると考えられ、本研究を通して自社に対して何らかの示唆を与えられるのではないかと考えたからである。また、経営ビジョンに関しては、これまでの研究において、企業経営におけるその重要性がたびたび強調されてはいるものの、持続的な競争優位とどう結びつくのかは、十分に論理的に明らかにされていなかったと言える。</p> <p>本論文においては、持続的競争優位構築の一つの理想的モデルとして「ストック型経営」を中心概念としている。「ストック型経営」とは、いたずらに規模拡大を追い求めず、他社には無い独自の競争力を着々と蓄積していくタイプの経営であり、「ストック」とはそうして蓄積された経営資源のことを指す。他の経営資源論との違いは、「ストック」はあくまで自前で長期にわたる企業活動の成果として獲得されたものであり、だからこそ模倣困難で持続的な競争優位の源泉となり得るという点である。</p> <p>事例研究は、実際にストック型経営を実践し、持続的競争優位を築いていると考えられる「株式会社シマノ」、「マブチモーター株式会社」の二社を対象に実施した。その結果、経営ビジョンが組織学習を促進することによって、ストックの構築に寄与していることが確認された。さらに経営ビジョンは、単に組織学習を促進するだけでなく、組織学習の内容や質に対して影響を与えていることが分かった。逆説的に言えば、コアとなるストックを築くためには、相応の内容や質を伴った組織学習が継続的に行なわれる必要があり、それを下支えする役割を果たしているのが経営ビジョンであると言えるだろう。</p>					